

< 実践事例 狛江市立狛江第三中学校 >

1. 取組・活動名

「グローバル化社会を支える人材の育成」

2. 取組・活動のねらい

- ネイティブの方との一対一の英会話トレーニングを通して英語の会話力を向上させ、学習意欲の向上を図る
- 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、英語を使って外国人と積極的にコミュニケーションをとる態度を養う
- 日本の伝統文化等のよさを理解し、地域の情報などを積極的に発信する力を身に付ける

3. 教育課程上の教科名・時数

「英語・特別活動・3時間（1年）、6時間（2・3年）」

4. 実施上の工夫

- ・タブレット等のICT環境の整備（市との連携）
- ・外部機関との連携（英会話オンラインスピーキングのプログラムの導入）
- ・校内の実施体制の確立（英語科・ICT教育推進委員会・中高連携担当等の連携）
- ・授業（英語・特別活動）や放課後、長期休業中の時間の有効活用

5. 本取組・活動の内容



「英会話オンラインスピーキングトレーニング」

- ・外部機関と連携し、ICT機器を活用してインターネットのスカイプを利用したフィリピン人講師との英会話オンラインスピーキングトレーニングを全校生徒に実施した。
- ・英語の授業中だけでなく夏季休業中や放課後も利用して、1年生は年間1～3回、2・3年生は2～6回講師の方と1対1の30分間の英会話をすることで、積極的に話す力が身に付くとともに英語学習への意欲が高まり、学力の向上にもつながっている。



「おもてなし交流会」

- ・オーストラリアから高校生24名が来校し、全校生徒と「おもてなし」交流会を実施した。
- ・内容は、「翼をください」英語版の全校合唱や箏の演奏の披露、英語のストーリーテリングによる日本の紹介、折り鶴体験、そして本校生徒とキラウィ高校生全員によるダンス「ジェンカ」等で、生徒たちに積極的に英語で発信しようとする態度が身に付き、楽しく交流することができた。



「外国人高校生との直接交流」

【活動内容】

- ・2、3年生の各班にキラウィ高校生が1名ずつ入り、一緒に給食を食べて昼休みに遊んだ後、班ごとに決めたプログラムで交流を図った。
- ・英語学習や英会話オンラインスピーキングトレーニングの成果を発揮して、生徒たちが積極的にキラウィ高校生に話しかける場面が多く見られた。

【交流プログラム例】

書道・折り紙・ボードゲーム・カードゲーム・ダンス・ジェスチャーゲーム・バスケットボール 等

6. 成果

- ・生徒たちがそれぞれのレベルで英会話に自信を持てるようになり、学習意欲が高まったことで学力も向上している
- ・生徒一人一人の進路意識が向上し、外国を意識した目標（留学・職業等）を持つ生徒が増えた
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、外国人への「おもてなし」の心を育むことができ、外国人と積極的なコミュニケーションをとれるようになっている
- ・日本の伝統文化等のよさを再認識して、外に発信することができた